

武田麟太郎 たけだ りんたろう 小説家。明治二十七年五月九日大阪生れ、昭和十一年二月二十一日没（一九〇四—四一）。筆名高橋マミ。第二高等學校を経て東京帝國大學文學部佛文科中退。昭和二年同人誌『辻馬車』編輯、八年川端康成、林房雄等と『文學界』を、十一年『人民文庫』を創刊、この間日本プロレタリア作家同盟（略稱チルパ）に参加、戦時中は陸軍報道班員として南方に従軍。

- 著譯書 『戦争に對する戦争』（ヤンチ・ミリタリズム小説集）』（合著）
・日本左翼文藝家總聯合会蔵原惟人編、昭和二年五月二十五日南東書院）、『刃逆の日律』（昭和五年七月二日改造社「新鋭文學叢書」）、
エノ・パンフエロウ作『貧農組合』（譯、昭和八年一月二十日内外社「國際最新文學叢書」）、『釜ヶ崎』（昭和九年二月十八日文座書林「文座書林文學本書」）、『勘定』（昭和九年五月二日改造社「文藝復興叢書」）、『われらの成果—新鋭傑作十七人集』（合著、昭和九年十月二十日二書房）、『銀座入丁』（昭和十年一月二十日改造社）、『市井事』（昭和十年四月四日竹村書房）、隨筆集『好色の戒め』（昭和十年十一月十四日文圃堂書店）、『下界の眺め』（昭和十一年一月二十五日有光社「純粹小説全集」）、『若く環境』（昭和十一年九月十五日竹村書房）、『文壇人オリシナル・シナリオ集』（合著、昭和十一年十一月五日河出書房「シナリオ文學全集」）、『風速五十米』（昭和十二年十一月一日新潮社）、『世間ばなし』（昭和十二年九月二十日相模書房）、『山脈』（昭和十二年十月二十日文海書房）、『銀座八丁』（昭和十四年十月一日、再刊、二十一年十月五日新潮社「昭和各



了』（昭和十四年十月一日、再刊、二十一年十月五日新潮社「昭和各

作選集』、 『大凶の籤』 (昭和十四年十月十一日改造社)、 『著』

(昭和十五年)二月、二十日新潮社)、

『蚊帳』 (昭和十五年七月、二十日

今日の問題社)、 『武田麟太郎集』

(昭和十五年十一月十日改造社

『新日本文學全集』)、 『小説作法』

(昭和十六年二月十二日朗石書房)、

『愛國浪曲原作集』 (合著・経國文藝の會編、昭和十六年二月十日大

和書店)、 『手紙の女』 (昭和十六年五月十四日今日の問題社)、 『雪

の語』 (昭和十六年九月、二十日小山書店)、 『礎の人々』 (昭和十六

年十月十五日昭和書房)、 『花の夢さめく』 (五版・昭和十七年五月

二十八日八紘社杉山書店「八紘社杉山大陸版」)、 『シヤワ撃滅戰』

(合著・文化奉公會編、昭和十七年十一月五日大日本雄辯會講談社

「大東亞戰争陸軍報道班員報告」)、 『シヤワ更紗』 (昭和十九年十

二月十日筑摩書房)、 『女の環境』 (昭和二十一年四月、二十日飛鳥書

店)、 『幾山河』 (昭和二十一年十月十五日碧空社「碧空叢書」)、

『武田麟太郎全集・第五卷』 (昭和二十一年十一月、二十日六興出版

部)、 『瀧生まへ』 (昭和二十一年十一月五日東京出版株式會社)、

『習待草』 (昭和二十一年五月五日隔田書房)、 『繪看板』 (昭和二十

一年五月二十日又見堂)、 『情婦』 (昭和二十二年十月、二十五日鎌

倉文庫「現代文學選」)、 『銀座八丁』 (昭和二十四年一月、二十五日

新潮社「新潮文庫」)、 『武田麟太郎
織田作之助 安吾集』 (佐々木基一編、昭和二十

七年七月、二十日新潮社「日本文學全集」)、 『望の白・蒲団』 (島本



健作全集、昭和四十四年五月、千代田書房「雨の日文庫・現代日本文

学」()、河武田藤木郎全集「全二卷」(新田)芳徳、昭和五十一年千

一月、千代田新潮社()等。